

獨協医科大学附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

獨協医科大学附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認、病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・細胞・排泄物など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料（血液・細胞・排泄物など）を利用することにご了解いただけない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。

研究課題名	膵臓癌術後補助化学療法 S1 の認容性に対する予測因子としての CRP/アルブミン比を指標とした有用性の確認研究
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	獨協医科大学病院 病院長 麻生好正 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	獨協医科大学 肝胆膵外科 森 昭三
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2025年12月31日
対象	2010年1月から2023年12月に獨協医科大学医学部附属病院肝胆膵外科を受診された方のうち膵臓癌の手術を受け、S1による術後補助化学療法を行った患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、手術時の年齢、既往、悪性疾患のp-Stage、身長、体重、BMI、ASA分類、術式、手術時間、出血量、輸血の有無、術前の喫煙の有無、術前の副腎皮質ステロイド使用の有無、術前の免疫抑制剤使用の有無、血液検査結果、術前治療の有無と種類、術後合併症、術後在院日数、S1による有害事象の有無、予後 等
研究の概要	過去に愛媛大学医学部附属病院 肝胆膵・乳腺外科で膵臓癌の手術を受けられた患者さんのうち術後補助化学療法を行った方の診療録(カルテ)の情報を収集し、化学療法前のCRP/アルブミン比がS1による術後補助化学療法の完遂の予測に有用であることを論文発表致しました。この研究は、耐術能や術後合併症だけでなく、CRP/アルブミン比(CAR)が化学療法の完遂に影響するのかを他施設(獨協医科大学附属病院)のデータを用いてもその有用性を示せるのかを愛媛大学で確認・評価する研究です。獨協医科大学から提供された情報から得られるその結果

	<p>は今後の診療にも役立てられると考えています。</p>
<p>個人情報の取扱い</p>	<p>収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、獨協医科大学肝胆膵外科、および愛媛大学肝胆膵・乳腺外科で個人情報管理者が厳重に保管いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。</p> <p>また、保管される試料・情報を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>獨協医科大学 肝胆膵外科 森 昭三 321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林 880 Tel: 028-286-1111</p>